

六甲山の思い出メッセージコンテスト



ショートメッセージ



最優秀賞

昭和二六年三月のお見合いから十月の式まで、わずか三回のデートの二回目が六甲山でした。自作の洋服で一生懸命お洒落したのに当時教師の夫は草の上で爆睡。試験の採点で疲れていたという言い訳！そんな六甲山を去年ひ孫達と共に訪れました。老いた私の頬に吹く涼しい風に切ない思い出が甦りました。

《明石市・柏木一恵さん・80代》

優秀賞

当時付き合っていた彼と2度目のデート。夜の六甲山に連れて来てくれた。きれいな夜景を見ながら何を話したかも覚えていない程緊張して彼の隣でドキドキ。その時、目の前の大きく輝く星がスーッと落ちた。流れ星!! 2人同時に叫んだその瞬間私の中である予感がした。そう、2年後に私は彼の妻になった。

《たつの市・片岡真美さん・30代》

佳作

阪神・淡路大震災前の10月に、六甲山の回る十国展望台でかみさんにプロポーズしたのも今は昔。日常に追われ、息子らに振り回されて毎日が薄のようになんて流れていく今日この頃であるけど、六甲山に行くと一瞬だけでも初心に戻ることができるかな。なあ、かみさんよ これからもよろしく。

《長田区・南木邦彦さん・40代》

亡くなった父は山男で、槍ヶ岳や白馬にも登山していたが一番愛していた山は、見上げればそこに佇む六甲の山だった。休みの日ともなれば幼い私を連れてハイキングに出かけた。全山縦走にも参加していた。春夏秋冬、父との思い出の詰まった六甲山。今でも何かに悩むと山に振り向き山に問う私がいる。

《兵庫区・佐々木恵美さん・40代》

遠距離恋愛をしていた25年前、初めてつれてきてもらった展望台からの眺めに圧倒されました。いつも見たいという思いは実現。以来毎年一度は登って25年前の気持ちに浸っています。離れていた時の胸キュンや、うすれそうな愛情を取り戻してくれる六甲山は、私のすてきなタイムマシンです。

《三田市・國枝亜佐美さん》

子供の頃は毎日朝起きると、まず窓を開けて六甲山を眺めるのが日課でした。一日の始まりは六甲山だったのです。18才で神戸を離れ、その後は年数回しか神戸に戻らなくなりましたが、武庫川を越え六甲連山が見え始めると「ああ故郷（ふるさと）に帰って来たんだなあ」と言う実感がいつも沸々と湧いてくるのです。

《灘区・前田康夫さん・60代》

俳句

優秀賞

手のひらに 山の匂ひや 清水くむ

《灘区・猪熊登志美さん・80代》

佳作

肩寄せて 見下ろす街や 夏帽子

《加東市・行雲さん・70代》

芒原 遠くに聞ゆ 吾子の声

《明石市・永田木綿さん》

ひぐらしや あの尾根からも 谷からも

《明石市・橋本允子さん・70代》

山寺の 一尺ほどの 甘茶仏

《北区・金田美恵子さん・60代》

川柳

優秀賞

ケーブルで夏から秋へ ひとつ跳び

《北区・山下輝男さん・70代》

佳作

初めての 愛情弁当 食べたのヒツジ!

《加古川市・めりんさん・20代》

早屋や童児装やむ独り旅

《尼崎市・寺島晶子さん・70代》

六甲の山 揺るがすまでの恋をして

《明石市・吉村麻子さん・70代》

六甲の雪を集めて 恋溶かす

《孫山市・藤本三千代さん・60代》